

# 平安時代の宗教

## Overview

- 天台宗
- 真言宗
- 平安時代の神道——神仏習合の進展
- 大衆宗教
- 末法の時代における信仰

# 天台宗

## 最澄 (767-822)

- 近江の豪族の出身。19歳の時、東大寺で受戒。
- 比叡山で研究と修行。比叡山は日吉(ひえ)神が住む山とされた霊山であった。比叡山寺を建て、日吉神を守護神として祀った(現在は日吉大社となっている)。
- 天台教学をもっとも優れた教えと考えた。



## 天台教学

- 隋の時代、天台山の智顛(ちぎん)によってまとめられた教学。
- 多様かつ矛盾する仏教の教えを整理・体系化し(教相判釈)、法華経(The Lotus Sutra)を最高で最後の教えとした。

## 天台宗の形成

- 804年、遣唐使船で唐に渡る。天台山で天台教学を学ぶ(8ヶ月)。
- 805年、天台宗を開く。
  - 法華、禪、戒、密教、浄土教を合わせる。
- 812年、空海と断交。
  - 奈良仏教と最澄は対決、空海は妥協。
- 818年、比叡山に大乘戒壇を作る運動を開始。
  - 国家から一定の距離を置いた仏教となることを目指す。
- 822年、死去。866年、「伝教」の大師号を朝廷から与えられる。

## 天台宗の寺院



比叡山延暦寺 根本中堂



妙法院門跡 三十三間堂



三千院門跡 往生極楽院



曼殊院門跡

# 真言宗

## 空海 (774-835)

- 讃岐国の豪族の出身。20代を通じて、四国の山岳や山辺で修行を重ねる。
- 804年、中国に渡り、長安で密教を学ぶ。唐の密教の最盛期、恵果から教えを受け、遍照金剛の名を与えられる。
- 2年後の806年帰国。中国では842年の仏教弾圧で、密教はほぼ途絶えてしまう。



## 密教 (esoteric Buddhism)

- 6-7世紀、インドで大乗仏教の最後の流れとして成立。
  - 密教はチベットにも伝えられ、チベット仏教が成立。
- 大日如来 (Mahavairocana) を宇宙の根本仏と考える。金剛界 (The Diamond Realm) と胎蔵界 (The Womb Realm) をつくっているとされる。これを図絵として表したのが曼荼羅 (mandala)。
- 事相 (護摩法をはじめとする呪術的な加持祈祷) と教相 (大日如来を中心とする世界についての理論) のバランス。
- すべての人間は大日如来の現れで平等。宇宙の本質である大日如来と一体となることができる (即身成仏)。



胎蔵界曼荼羅



金剛界曼荼羅

## 真言宗の形成

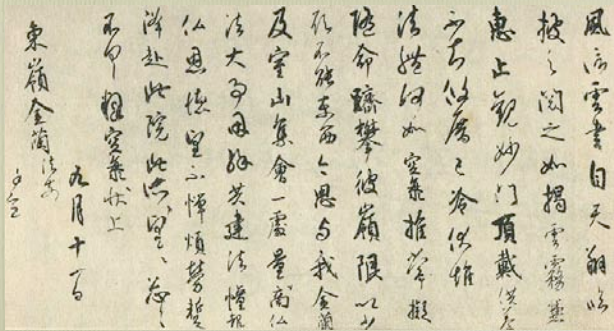
- 816年、高野山に密教の道場を開く。後の高野山金剛峯寺。
- 823年、朝廷から京都の東寺を与えられる。寺号を教王護国寺とあらためる。828年、隣に綜芸種智院という学校をつくる。
- 832年、高野山に入る。
- 835年、入滅 (61歳)。
- 921年、醍醐天皇から「弘法大師」の号をおくられる。

## 密教美術の発展

- 三密：身 (body) ・口 (speech) ・意 (mind)
  - 一定の作法で仏に働きかける。
- 彫像、図像、曼荼羅が多数作られる。
- 密教即芸術

## 民衆生活の中の空海

- 空海に関する数々の伝説
  - 空海ゆかりの井戸、池、温泉は全国各地にある。平仮名、讃岐うどんも空海がつくったという伝説がある。
- 書道
  - 「弘法にも筆の誤り」「弘法筆を選ばず」
- 四国八十八カ所の遍路
  - 空海と「同行二人」で歩む行とされてきた。



空海筆『風信帖』

## 平安時代の神道

— 神仏習合の進展 —

## 神道と仏教

- 927年、「延喜式」が作られ、神祇制度が整う。
- 神仏習合が進む。
  - 九州宇佐地方の神である八幡神（鉦産、鍛冶の神）が大仏建立を助けたことから、八幡神は仏教を守護する善神とされた。平安初期には都を鎮護する神として石清水に祀られた（石清水八幡宮）。



石清水八幡宮 本殿

## 本地垂迹説

- 平安中期には、本地垂迹説 (the manifestation theory) が説かれるようになる。
- インドに起源を持つ。
- 天台宗、真言宗によって、神々の本地仏が説かれるようになる。
  - 天照大神 ← 大日如来
  - 八幡神 ← 阿弥陀如来

## 仏教による神道の包括

- 本地垂迹説の普及とともに、神社ではその本体である仏を「神宮寺」や「別当寺」をつくって祀ることが一般化する。
- 伊勢神宮、出雲大社などの高位の神社以外では、主導権が神宮寺や別当寺に移っていく。
- 神道の骨組みを残したまま、仏教が神道を包括していく。また、神道は仏教の影響を受けて、教義や儀礼を整えていく（日本型「包括主義」）。

## 大衆宗教

### 陰陽道 (おんみょうどう)

- 陰陽五行説に基づいて、年、日、時刻、方角、人の一生などについて吉凶を説く。
- 五行説：万物は木・火・土・金・水の五元素から成るという説。
- 安倍晴明 (921-1005)
  - 晴明神社



### 御霊信仰



- 御霊信仰の例
  - 869年、疫病が大流行。古いより牛頭天王（水の神、疫病を支配する神。神仏習合では、スサノオの本地、薬師如来の垂迹とされた）のたたりとわかる。祇園社（1868年に八坂神社に改名）で牛頭天王を祀る。祇園祭の起源。
  - 御霊の祭りは夏祭りとして定着していく（それ以前、祭りは春と秋に行うのが基本であった）。

## 末法の時代 における信仰

### 末法思想の流行 (II世紀)

- 末法 (The Latter Day of the Law; the Age of Dharma Decline; The End of Dharma)
- 正法 (釈迦以降の1000年)、像法 (次の1000年)、末法 (その後の1万年) という三区区分による仏教の下降史観。
- 1052年が末法の第一年になると考えられた。政治の乱れ、災害や疫病の続発、僧兵の横暴などを背景として、末法が現実感をもって受けとめられた。

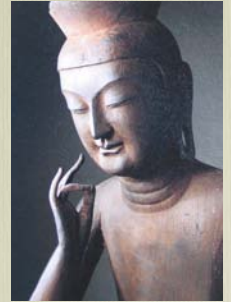
## 浄土教の流行

- 阿弥陀信仰
  - 「南無阿弥陀仏」を唱える。極楽浄土と共に地獄を描くことが盛んになる。
- 平等院鳳凰堂
  - 藤原頼通が宇治の別荘を寺院にした平等院に阿弥陀堂（鳳凰堂）をつくる。



## 弥勒信仰

- 仏滅後56億7千万年たつと、地上に下って仏となると信じられた。農民の間で、救世主としての弥勒信仰が広まった。



## 地藏信仰

- 弥勒菩薩が出現するまでの間、六道（地獄道・餓鬼道・畜生道・修羅道・人道・天道）を輪廻する衆生を救うとされた菩薩。
- この世と地獄の境に立つとされたので、村はずれの辻に地藏が立てられることが多かった。

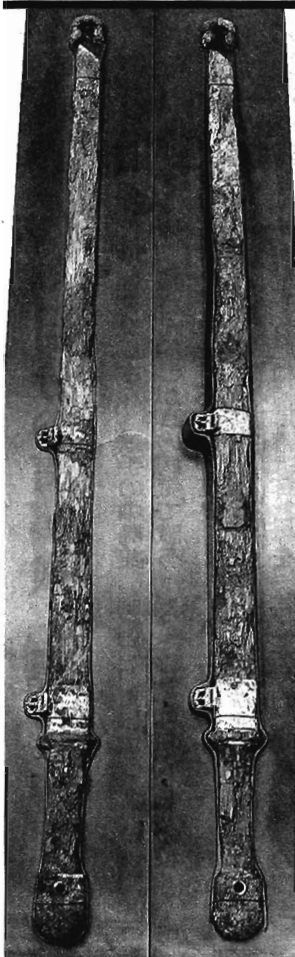


## 観音信仰

- 観音菩薩は衆生を観て自在に救う菩薩と考えられた。様々に姿を変えて現れる。
- 平安中期には様々な観音を合わせて信仰する「三十三観音」の信仰が盛んになる。
- 三十三間堂

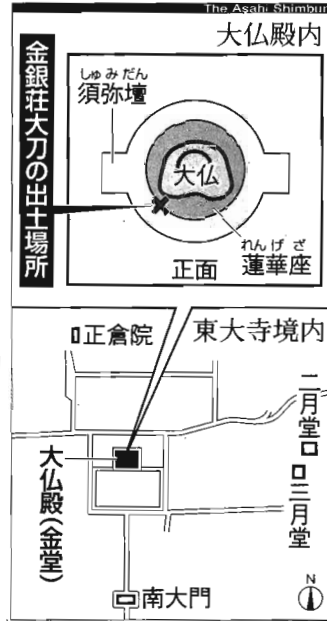
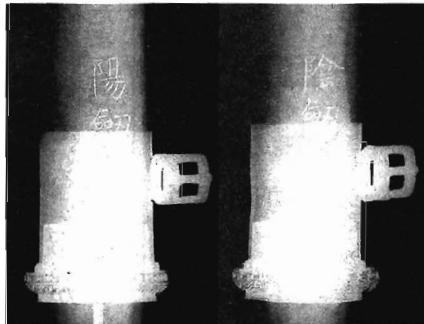


# 幻の宝刀 大仏の足元に



東大寺大仏殿から見つかった「陽寶劔」(左)と「陰寶劔」=25日午後、奈良県生駒市、矢木隆晴撮影

㊦金銀荘大刀に象眼された「陽劔」の文字 ㊦金銀荘大刀に象眼された「陰劔」の文字(いずれも大刀をX線写真で撮影し左右反転させた)=元興寺文化財研究所提供



奈良・東大寺の大仏の足元から明治期に出土し、「東大寺金堂鎮壇具」として国宝に指定された金銀荘大刀2振り、約1250年にわたって行方が分からなかった正倉院宝物の大刀「陽寶劔」「陰寶劔」だったことが、元興寺文化財研究所(奈良市)の調査でわかり、研究所と東大寺が25日、発表した。(編集委員・小滝ちひろ) 31面に関係記事

## 正倉院「除物」約1250年ぶり確認

「陽寶劔」「陰寶劔」は東大寺を創建した聖武天皇(701~756)の遺愛品で、妻の光明皇后(701~760)が大仏に献納した後に正倉院から持ち出され行方不明となっていた。こうした「除物」と呼ばれる品は武具や箱など七つあるが存在が確認されたのは初めて。大刀は1907(明治40)年、大仏が座る蓮華座と須弥壇の境目付近の深さ約45センチの土中から見つかった。鉄製で、大仏殿(金堂)の永続を願って埋められた「鎮壇具」と判断され、近くに埋まっていた別の大刀などと一緒に1930年に国宝指定された。東大寺は今年度から2年かかりで、金堂鎮壇具の保存修理を研究所に依頼。X線調査で、長さ98・3センチの大刀(鉄製)の刀身の根元近くに1辺約1・5センチの楷書で「陽劔」、97・5センチの大刀(同)には「陰劔」と象眼が施されていることが分かった。

「陽寶劔」「陰寶劔」は756(天平勝宝8)年に光明皇后が大仏に献納した品々の目録「国家珍宝帳」の刀剣類のトップに記されている。そこに書かれた長さや構造が今回の大刀と一致した。珍宝帳には「除物」の付箋が

あり、別の正倉院文書から759(天平宝字3)年12月26日に持ち出されたことがわかっていった。持ち出した人物について、専門家の間では、献納した光明皇后本人と考えられている。鎮壇具は仏堂の建立などに先だつて埋めるのが通例。しかし、東大寺の大仏殿は、聖武天皇が存命中の751(天平勝宝3)年にほぼ完成していたのに対し、大刀が埋められたのは759年以降とみられることから、研究所は鎮壇具とは別の意味を持つ可能性が大きいとみている。

また、金堂鎮壇具のX線調査の結果、別の銀荘大刀1振り(長さ62・4センチ)の刀身から北斗七星の文様が見つかった。正倉院の文書に該当する記述が見つからないという。

### 「仏教で国安泰」 光明皇后祈願か

米田雄介・元正倉院事務所長の話 大仏造立が、聖武天皇と光明皇后が一緒に進めた事業だったことを改めて印象づけた。光明皇后は聖武天皇とともに大切にしていた宝を埋めることで、(仏教の力で国の安泰をはかる)鎮護国家を強く祈ったのではないかとみている。

# 奈良の都にトリップ



正倉院展で公開された宝物を鑑賞する人たち＝23日午前、奈良市、小玉重隆撮影

奈良時代の代表的な美を展示する第62回正倉院展（主催・奈良国立博物館）が23日、奈良市登大路町の同博物館で始まった。聖武天皇（701～756）が愛した西方伝来の「螺鈿紫檀五枝琵琶」、没後1250年になる光明皇后（701～760）が納めた薬物の目録「種々薬帳」などが並び、午前9時の開場前から長い行列ができた。

皇太后が履いた可能性もある靴「繡線鞋」は中国・トゥルファン（吐蕃）の古代墓に類例があり、仏への供物の台に敷いたテールブルクロス（白綾綾錦）はライオンや南方風の男性が描かれている。こうした国際性を感じさせる宝物の前にはさっそく人だかりができた。出展71点のうち、14点が初お目見え。会期は11月11日まで（無休）。開館時間は午前9時～午後6時（金土日・祝日は午後7時）。大人千円、大学・高校生700円、小学生400円。問い合わせはハローダイヤル（050・542・8600）。

朝日新聞（朝刊）

2010年（平成22年）10月7日 木曜日 13版 社会 30

## 平等院 創建時知る右手？



世界遺産・平等院（京都府宇治市）で、平安時代後期の1052年に創建された当時に本尊として祭られていた大日如来像の右手とみられる仏像片Ⅱ写真、平等院提供Ⅱが見つかった。本尊はその後、大日如来から阿弥陀如来に変わっており、浄土信仰をベースとする平等院が密教と強いつながりを持っていた可能性が出てきた。発見された仏像片について平等院は「寺の成り立ちを知る貴重な手がかり」としている。（西江拓矢）

### 平安後期 大日如来の仏像片見つかる

平等院によると、仏像片はヒノキ材で、長さ約27センチ、幅約15センチ。手の形から密教の最高仏である大日如来像の「智拳印」とみられている。表面には漆と金箔がわずかに残り、手の大きさなどから仏像全身の高さは1尺強の座像と推測されている。

仏像片は「最重要」と墨書されたヒノキの箱に収められ、平等院の塔頭・浄土院に保管されていた。今月2日から始まった展示会開催にあたり、専門家に収蔵品の調査を依頼し、確認された。平等院は、平安時代の関白・藤原頼通が自分の別荘を寺に改

めたのが始まりとされる。創建時の本堂に大日如来が本尊として祭られていたことが平安後期の古辞書「伊呂波字類抄」などの史料から分かっていた。

しかし、創建翌年には、阿弥陀如来の座像を安置する阿弥陀堂（鳳凰堂）が境内に完成。その後は阿弥陀堂中心の伽藍配置となり、大日如来がどう扱われたのかが判然としていなかった。

仏像に詳しい清泉女子大の山本勉教授（日本美術史）は「浄土思想は密教の中ではぐくまれた。今回の発見は、平安後期の仏教のあり方を解き明かす材料になるだろう」と語った。

仏像片は来年1月14日まで、境内の「ミュージアム鳳翔館」の特別展で公開される。問い合わせは平等院（0774・21・2861）へ。